

2 まちの変遷

(1) まちの将来像の変遷

総合計画(計画期間)	まちの将来像
第1次 (2008(平成20)年度～2017(平成29)年度)	山よし!技よし!文化よし! 夢がきらめく☆元気なまち 加東 ～ささえあい 一人ひとりを大切にする ふるさとづくり～

(2) 本市のこれまでのあゆみ

年	月	主な出来事
2006(平成18)年	3月	市が誕生(3月20日)
	9月	合併記念式典を開催 のじぎく兵庫国体が開催(アーチェリーなど)
	10月	国立大学法人兵庫教育大学との連携協力に関する協定を締結
	10月	『世界に一つ!加東遺産』(10か所)を選定
2007(平成19)年	3月	第1次加東市総合計画を策定
	4月	CATV*82 市内全域放送を開始 市花がコスモス、市木がさくらに決定 市の音頭『加東よしよし音頭』と市応援歌『勇躍加東』が完成
	7月	公立社総合病院を加東市民病院に改称
	11月	市マスコット『加東 伝の助』が誕生
	11月	庁舎統合の検討を開始
2009(平成21)年	7月	兵庫県立人と自然の博物館との協力協定を締結
	7月	兵庫県立人と自然の博物館との協力協定を締結
2010(平成22)年	4月	北播磨3市1町の消防広域化協議会が発足
2011(平成23)年	2月	浸水対応用の排水ポンプ積載車を導入
	3月	旧滝野庁舎の駐車場に災害時用の耐震型貯水タンクを整備 やしろこどものいえ・わくわく棟が完成(増築)(4月オープン) 加東市民憲章を制定
	4月	北はりま消防本部が発足 市制5周年記念式典を開催
	11月	忠臣蔵にゆかりのある全国の自治体が集まる『忠臣蔵サミット』を開催
	12月	市と国立大学法人兵庫教育大学が中心となり、教育・産業振興・健康づくり・子育て支援など、あらゆる分野で連携する共同体『輝く加東まちづくりコンソーシアム*75』を設立
	3月	公共施設マネジメント白書を作成 星の里公園が完成(4月供用開始)
	6月	市役所新庁舎整備工事に着手
	8月	梶原幹線が全線開通 西日本高速道路株式会社と災害時の相互協力協定を締結
	10月	自主運行バス*89『米田ふれあい号』を運行開始 国宝朝光寺本堂の保存修理が完了
	12月	国道372号が市域全線開通
2013(平成25)年	3月	社中央公園ステラパークに災害時用の耐震型貯水タンクを整備 日本レスキュー協会と災害救助犬・セラピー犬の派遣協力協定を締結 第1次加東市総合計画後期基本計画を策定 アフタースクール*90専用施設・東条東げんきクラブが完成(4月オープン)
	6月	県下初の『日本酒による乾杯を推進する条例』を制定
	8月	家庭ごみの少なさで県下1位を達成
	9月	JR加古川線開業100周年記念事業を開催
	10月	山田錦乾杯まつりを初めて開催 南山地区内に災害時用の配水池を整備

年	月	主な出来事
2013(平成25)年	11月	鴨川地域の社中学校生徒・鴨川小学校児童と馬瀬地区の三草小学校児童を対象にスクールバスの運行を開始
		キャラクターフェスティバルinかとうを初めて開催
	12月	市役所新庁舎が完成
2014(平成26)年	2月	市役所新庁舎での業務を開始
	5月	自主運行バス『きよみずバス』を運行開始
	9月	障害者の就労支援のための純米酒『なんでん』が完成
	11月	加東サンサンチャレンジ* ³² 事業が厚生労働省の「第3回健康寿命をのばそう!アワード」で、県下初の自治体部門優良賞を受賞
		近畿初の『加東市手話言語条例』を制定
2015(平成27)年	2月	市公共施設に太陽光発電施設を設置
	3月	加西市と共に定住自立圏の中心市を宣言
		市の最高峰の愛称が『加東神山(かとうこやま)』に決定
	6月	市オリジナルの婚姻届を作成
	7月	まち未来創生本部を発足
	9月	市内5企業とかとう環境パートナーシップ* ³⁰ 協定を締結
		公共施設の適正化に関する計画を策定
	10月	加西市と共に西脇市・多可町と定住自立圏形成協定を締結
2016(平成28)年	1月	防災行政無線戸別受信機の設置を開始
		小中一貫校の整備方針を決定
	3月	市制10周年記念式典を開催
		加東市人口ビジョンと第1次加東市総合戦略を策定
		加圧ポンプ付給水車の配備
	4月	加東消防署東条分署を移転し、東条出張所として業務開始
		市オリジナル『かとう英語ライセンス制度* ²⁹ 』を開始
	6月	王子コンテナ株式会社兵庫工場と災害時における物資提供等(ダンボールベッド等)の協力に関する協定を締結
	10月	市制10周年記念事業『加東のたいこ屋台大集合!』を開催
	11月	11月24日を『かとう和食の日* ³⁵ 』として設定
	12月	市制10周年記念事業『輝く加東!冬の祭り』を開催
		上鴨川住古神社本殿の保存修理が完了
2017(平成29)年	1月	日本下水道管路管理業協会と災害時の下水道施設復旧支援協力に関する協定を締結
	3月	防災行政無線の運用を開始
		南山活性化支援施設『Mina-Kuru(ミナクル)』が完成(4月オープン)
		やしろショッピングパークBio2階の多目的ホールのリニューアル工事が完了(4月オープン)
		公共施設等総合管理計画を策定
	4月	市制10周年記念事業『大相撲加東場所』を開催
		市CATV事業を民間事業者との協業へ完全移行
		各種証明書のコンビニ交付サービスを開始
	5月	加古川河川改修築堤工事に着手
	6月	発達サポートセンター『はびあ』を開設
2018(平成30)年	7月	京都府宇治田原町と災害時相互応援協定を締結
	1月	東条福祉センター『とどろき荘』の改修工事が完了(3月営業再開)
	3月	加東消防署新庁舎が完成(業務開始)
		加東市人口ビジョンの改訂と第2次加東市総合戦略の策定
		第2次加東市総合計画の策定
	4月	北はりま消防本部が西脇消防署内へ移転

3 まちの現状

(1) 地理的概況

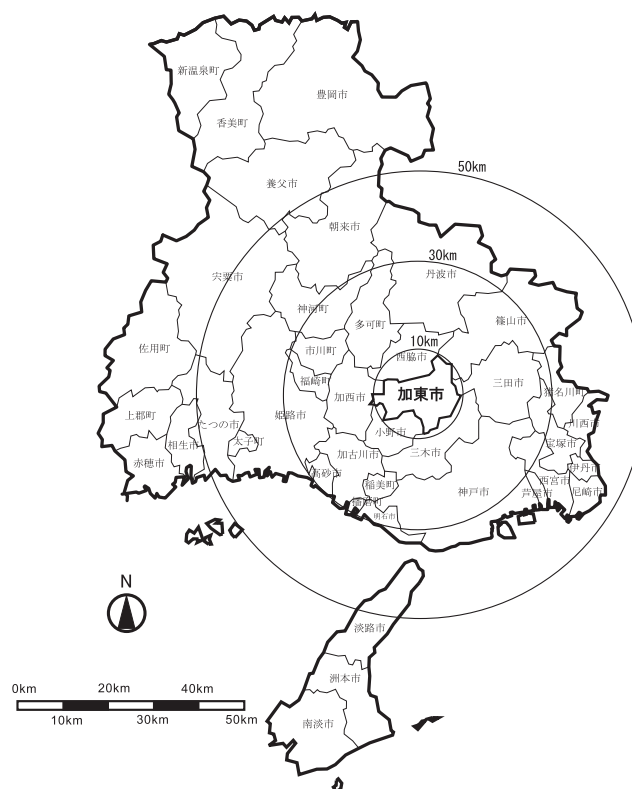
① 位置と面積

- 兵庫県中央部やや南よりに位置し、東は篠山市と三田市、南は三木市と小野市、西は加西市、北は西脇市と接しており、総面積は157.55平方キロメートルです。

② 地形・地勢

- 北部から北東部にかけて、中国山地の支脈がのび、これに連なって御嶽山や三草山、五峰山などがあります。
- 加古川などの河川に沿って河岸段丘と沖積平野が形成されており、南部には嬉野台地、加古川右岸には青野ヶ原台地が広がっています。
- 加古川の支流である東条川や出水川、千鳥川、吉馬川、油谷川などが地域を潤しながら流れています。
- 多数のため池が築造されており、農業用水として活用されるとともに、自然環境との接点として幾多の生物に生息の場を与えています。
- 北東部地域一帯は、清水東条湖立杭県立自然公園に指定されており、美しい自然が広がっています。

■ 本市の位置



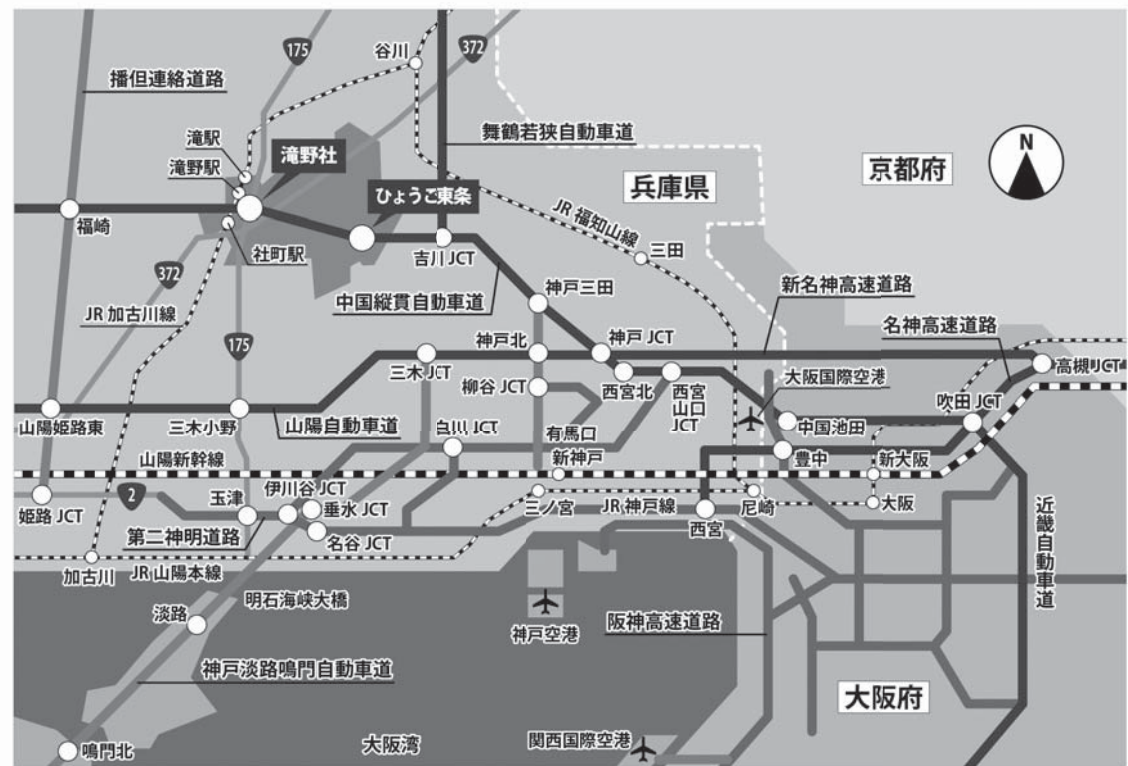
③気 候

- 瀬戸内型気候の特色を備えており、四季を通じて比較的温暖な気候となっています。
- 瀬戸内海沿岸部に比べて年間平均気温は若干低くなっていますが、降水量はやや多くなっています。
- 晩秋から冬季にかけて霧が発生しやすい特徴があります。

④交通条件

- 本市の東西を中国縦貫自動車道が走り、ひょうご東条インターチェンジと滝野社インターチェンジの2つの玄関口を有しています。また、幹線道路である国道175号が南北を、国道372号が東西をつなぎ、道路交通の要衝となっており、阪神地域や姫路・岡山方面などと直結しています。
- 本市の西部を南北にJR加古川線が通っており、JR山陽本線加古川駅などと結ばれています。

■本市周辺の交通網



⑤土地利用

- 有租地（課税対象となっている土地）では、山林が占める割合が最も多く、次いで田となっています。
- 非課税となっている公共空間などを含む全土地では、「その他」が49.8%となっており、播磨中央公園など豊かな緑の空間や道路などの公共施設空間が多いことを示しているといえます。

■地目別土地面積(全土地)

(単位:km²(総面積のみ)、m²)

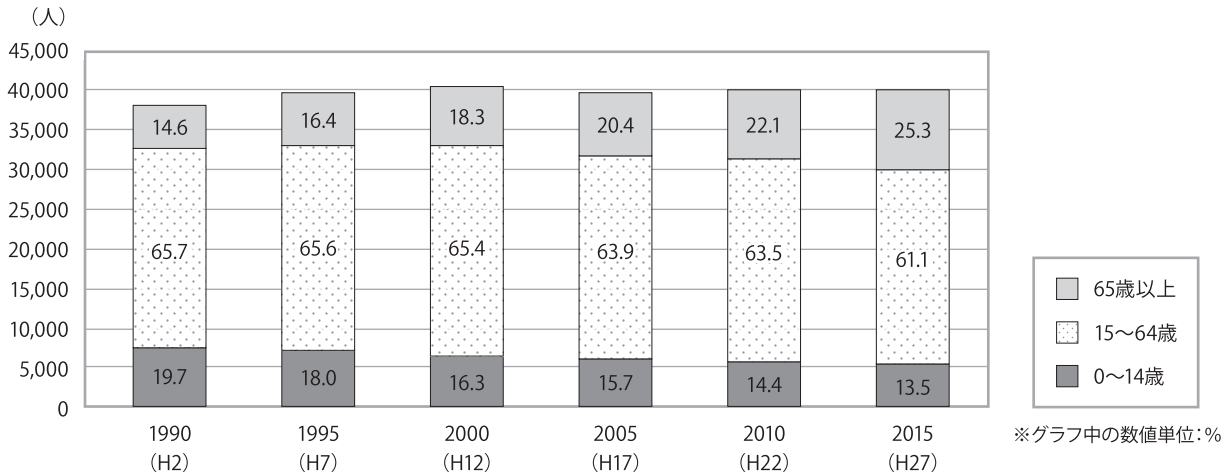
総面積	田	畑	宅地	山林	牧場・原野	その他
157.55	27,459,139	1,882,813	10,496,067	36,673,624	2,504,115	78,534,242
100.0%	17.4%	1.2%	6.7%	23.3%	1.6%	49.8%

※2017(平成29)年1月1日現在
資料:兵庫県(兵庫県統計書)

(2)人口及び世帯

- 人口は、2000（平成12）年のピークを境に減少傾向が見られましたが、近年は増加に転じています。しかしながら、今後の人口減少社会の進行により、本市においても人口が減少していくことが予測されています。
- 2015（平成27）年の国勢調査時点における65歳以上の高齢者の割合は25.3%となっており、兵庫県全体の26.8%、北播磨地域の29.7%を下回っています。*118
 今後は、少子高齢化の進行により、老年人口（65歳以上）が増加し、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）や年少人口（15歳未満）が減少していくことが予測されています。
- 世帯数は、核家族化（単身世帯増）により増加傾向にあります。

■人口・世帯数の推移



(単位：世帯、人)

年	世帯数	人 口					
		総数	男	女	0～14歳	15～64歳	65歳以上
1990(平成2)年	10,323	38,270	18,788	19,482	7,531	25,137	5,598
1995(平成7)年	11,577	39,743	19,539	20,204	7,145	26,071	6,527
2000(平成12)年	12,773	40,688	19,961	20,727	6,628	26,591	7,448
2005(平成17)年	13,155	39,970	19,578	20,392	6,255	25,455	8,104
2010(平成22)年	14,133	40,181	19,738	20,443	5,805	25,515	8,861
2015(平成27)年	15,086	40,310	19,619	20,691	5,426	24,522	10,161

※各年10月1日現在

※年齢3区分別人口・構成比は、年齢不詳（1990（平成2）年：4人、2000（平成12）年：21人、2005（平成17）年：156人、2015（平成27）年：201人）を除きます。

※年齢3区分別人口の構成比は、小数第2位を四捨五入して表示しているため、合計が100/パーセントにならない場合があります。

資料：総務省（国勢調査）

(3) 産 業

① 農 業

- 本市の農家総数は、減少傾向にあります。特に、兼業農家^{*61}の減少率が大きく、15年間に、第1種兼業と第2種兼業をあわせて計800戸以上の農家が離農しています。

■農家数の推移

(単位:戸)

年	農家総数	販売農家 総数	専業農家 ^{*120}	兼業農家			自給的 農家 ^{*86}
				計	第1種兼業	第2種兼業	
2000(平成12)年	3,302	2,581	168	2,413	83	2,330	721
2005(平成17)年	3,043	2,356	248	2,108	150	1,958	687
2010(平成22)年	2,900	2,188	310	1,878	128	1,750	712
2015(平成27)年	2,474	1,887	346	1,541	142	1,399	587

※各年2月1日現在

資料:農林水産省(世界農林業センサス、農林業センサス)

②工業・商業

- 本市に立地する事業所で最も多いものは、卸売業、小売業であり、次いで製造業、以下、宿泊業、飲食サービス業、建設業となっています。
- 市内4工業団地などにおいて、多くの事業所が立地しています。

■産業(大分類)別事業所・従業者数の推移(民営事業所ベース)

(単位:事業所、人)

産業分類	2009(平成21)年		2012(平成24)年		2014(平成26)年	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
総数	1,982	21,323	1,833	21,435	1,837	20,913
農業、林業	9	85	7	71	10	101
鉱業、採石業、砂利採取業	1	62	1	68	1	61
建設業	198	1,016	180	906	173	855
製造業	307	7,051	289	7,785	291	7,546
電気・ガス・熱供給・水道業	2	114	1	100	1	100
情報通信業	7	30	10	37	7	27
運輸業、郵便業	70	1,306	69	1,436	71	1,404
卸売業、小売業	510	3,616	440	3,095	435	2,907
金融業、保険業	15	154	16	160	17	175
不動産業、物品賃貸業	82	301	74	232	68	261
学術研究、専門・技術サービス業	65	336	53	223	59	232
宿泊業、飲食サービス業	245	1,765	223	1,759	232	1,803
生活関連サービス業、娯楽業	153	1,923	152	1,762	152	1,541
教育、学習支援業	54	669	41	765	45	765
医療、福祉	91	1,336	98	1,548	113	1,975
複合サービス事業	13	277	12	277	13	299
サービス業(他に分類されないもの)	160	1,282	167	1,211	149	861

資料:総務省・経済産業省(経済センサス)

■製造品出荷額等の推移

(単位:万円)

年	製造品出荷額等	粗付加価値額
2006(平成18)年	28,885,494	13,326,775
2007(平成19)年	29,602,987	12,541,970
2008(平成20)年	31,114,866	12,038,337
2009(平成21)年	32,670,026	12,069,737
2010(平成22)年	32,325,737	13,163,454
2011(平成23)年	37,102,916	12,227,014
2012(平成24)年	36,208,434	11,020,348
2013(平成25)年	31,626,745	9,365,224
2014(平成26)年	39,564,061	12,282,417
2015(平成27)年	36,570,355	9,652,066

資料:経済産業省(工業統計調査)、総務省・経済産業省(経済センサス)

■卸売業、小売業の推移

(単位:店・事業所、人、百万円)

年	卸売業			小売業		
	商店・事業所数	従業者数	年間商品販売額	商店・事業所数	従業者数	年間商品販売額
1997(平成9)年	103	783	92,241	478	2,617	57,822
1999(平成11)年	106	814	83,589	471	2,473	44,686
2002(平成14)年	92	740	49,635	439	2,626	43,045
2004(平成16)年	92	693	44,284	435	2,551	41,826
2007(平成19)年	88	615	40,254	408	2,437	42,254
2012(平成24)年	72	503	29,679	257	1,523	29,163
2014(平成26)年	79	436	33,012	276	1,701	37,410

資料:経済産業省(商業統計調査)、総務省・経済産業省(経済センサス)

③観光

- 本市には、多くの入込客数を誇る県内最大の公園である県立播磨中央公園をはじめ、多くのゴルフ場や東条湖おもちゃ王国、道の駅とうじょうが立地しています。また、闘竜灘ややしろ鴨川の郷のほか、東条湖や三草山をはじめとする清水東条湖立杭県立自然公園などがあり、日帰り客が9割以上を占めています。

■観光客入込客数の推移

(単位:千人)

年 度	総 入 込 客 数	形態別入込客数		目的別入込客数						
		日 帰 り ・ 宿 泊 別		自 然	歴 史 ・ 文 化	温 泉 ・ 健 康	スポーツ・レクリエーション	都市型観光	その他	行祭事イベント
		日帰り客	宿 泊 客							
2006(平成18)年度	2,931	2,693	238	—	—	—	—	—	—	—
2007(平成19)年度	2,808	2,551	257	—	—	—	—	—	—	—
2008(平成20)年度	2,898	2,618	280	—	—	—	—	—	—	—
2009(平成21)年度	2,931	2,654	277	—	—	—	—	—	—	—
2010(平成22)年度	3,285	3,060	225	150	181	239	2,155	31	367	162
2011(平成23)年度	3,192	2,978	214	107	170	246	2,073	21	417	158
2012(平成24)年度	3,244	3,043	201	102	169	237	2,088	21	545	82
2013(平成25)年度	3,157	2,957	200	102	146	252	1,964	23	590	80
2014(平成26)年度	3,431	3,215	216	108	151	252	2,017	157	661	85
2015(平成27)年度	3,480	3,323	157	136	140	242	1,972	153	747	90
2016(平成28)年度	3,357	3,150	207	110	125	230	1,888	150	749	105

資料:兵庫県(兵庫県観光客動態調査)

(4) 歴史・文化

① まちの歴史

- 市内には、旧石器や縄文・弥生の遺物、さらには600基に余る古墳が残され、先史時代から栄えた地であったことを物語っています。また、「播磨国風土記」の賀毛郡起勢・穂積・端鹿の里の条や、滝野荘・厚利荘の記録には古代の様子がしのばれ、都から西国へ通じる京都街道が市域を貫通して多くの史跡や文化を育んできました。
- 中世には、三草山合戦や光明寺合戦、播磨安国寺の創設など、日本の歴史を動かす事項が展開されました。嘉吉の乱で赤松氏が亡ぶと戦国時代に突入、各地に土豪が割拠しました。三木合戦を経て近世に入ると、豊臣氏や池田氏、浅野氏の支配の後、三草藩や旗本領、さらに遠国大名の飛領という分裂支配の典型を示しました。その間、物資交易の町場としての社、加古川舟運の基地滝野など、経済的にもめざましく発展しました。
- 近代に入ると、酒造米の増産や養蚕事業、葉煙草栽培の導入にみられる農業経営の多角化、さらには繊維工業、釣針や鯉のぼり製造などの地場産業が活況を呈しました。また、中小銀行の設立や播州鉄道の開通、道路網の整備も軌道に乗り近代化がさらに進みました。教育面でも、早くも1877(明治10)年代には国民皆学が実現、後に、兵庫県立社高等学校の中等教育も設けられました。
- 太平洋戦争後、農地改革の実施とともに農業技術・経営も一段と飛躍し、1951(昭和26)年には待望の鴨川ダムが完成しました。1965(昭和40)年代に入ると、中国縦貫自動車道の開通を機に、工業団地を開発、現在では先端産業を中心に多くの企業が操業しています。

② 自治体の歴史

- 徳川幕府が倒れた1868(慶応4)年4月、兵庫県(第1次)の出張所が社村に設けられました。次いで、1870(明治3)年には廃藩置県で三草県や姫路県などが誕生しましたが、翌1871(明治4)年に、市域は飾磨県の管下に置かれました。そして、1876(明治9)年には兵庫県(第3次)に統合。1879(明治12)年に「郡区町村編成法」の施行で旧加東郡が発足し、1889(明治22)年には「町村法」が実施され9か村となりました。
- 町制施行は、旧社町が1912(明治45)年、旧滝野町は1925(大正14)年に実施となりました。戦後の1953(昭和28)年制定の「町村合併促進法」に基づき、兵庫県は、加東郡内15町村を3ブロックとする第1次合併計画試案を提示。町村合併促進審議会などで検討した結果、「滝野町」(1954(昭和29)年3月)、「社町」(1955(昭和30)年3月)、「東条町」(1955(昭和30)年3月)の3町が順次成立しました。
- 明治以降、社町には各種官公庁が置かれてきましたが、現在でも国・県の出先機関や大学、研究所などが30余りを数え、行政・文教都市として生まれ変わっています。
- 2006(平成18)年3月20日、平成の大合併により、加東郡社町、滝野町、東条町が合併し、加東市が誕生しました。

■加東市を構成する旧3町の合併前(1950(昭和25)年)の旧町村名

合併前の旧町名	社 町				
旧 町 村 名	社 町	福田村	米田村	上福田村	鴨川村

合併前の旧町名	滝 野 町		東 条 町	
旧 町 村 名	滝野町	加茂村	上東条村	中東条村

【参考】第1次合併計画試案(兵庫県、1953(昭和28)年)

1	社町、加茂村、滝野町、福田村、上福田村
2	小野町、河合村、来住村、市場村、大部村
3	下東条村、中東条村、上東条村、米田村、鴨川村

③文化

- 西国25番札所御嶽山播州清水寺は、627(推古天皇35)年に法道仙人開基と伝える古刹で、数々の伝説とともに重要文化財級の太刀や経典、文書類を保管しています。また、鹿野山朝光寺の本堂は方七間、和様と唐様を混合した室町初期の折衷様式で、国宝指定を受けており、鐘楼が国指定重要文化財となっています。
- 建造物では、黒谷若宮八幡宮本殿(国指定重要文化財)や上鴨川住吉神社本殿(同)、秋津薬師堂(県指定重要有形文化財)、石造物では、上田の大茅神社明神鳥居(県指定重要有形文化財)や河高住吉神社の石造明神鳥居(同)などがあります。また、仏像では、光明寺遍照院の銅造如来坐像(国指定重要文化財)、能面では、上鴨川住吉神社の神事能面(県指定重要有形文化財)などがあります。
- 民俗芸能では、上鴨川住吉神社神事舞(国指定重要無形民俗文化財^{*211})は、中世の田楽・能楽の様式をとどめ、朝光寺鬼追踊(県指定重要無形民俗文化財)も室町期に起源を発する五穀豊穡・無病息災を祈るものとして、地域の人々に大切に継承されています。また、秋津住吉神社の秋津百石踊(県指定重要無形民俗文化財)は、室町中期に流行した念仏踊に源を発するといわれています。
- 三草山古戦場や太平記のふるさと光明寺古戦場、安国寺の首塚、観音寺の義士碑、三草藩武家屋敷、新町高瀬舟船着場跡なども由緒ある記念物として親しまれています。また、名勝聞竜灘や東条湖、播磨中央公園などへも憩いを求める人々が訪れています。
- 2007(平成19)年に、ふるさとの文化財・史跡の価値を再認識し、「世界に一つ! 加東遺産」として、次の10か所を選定しました。

- ①安国寺と足利義教の首塚 ②上鴨川住吉神社と神事舞 ③観音寺と赤穂義士菩提所 ④清水寺と巡礼 ⑤光明寺
⑥佐保神社 ⑦朝光寺と鬼追踊 ⑧東条湖と秋津富士 ⑨聞竜灘と鮎漁 ⑩三草山と丹波道

(5)財政

①歳入・歳出

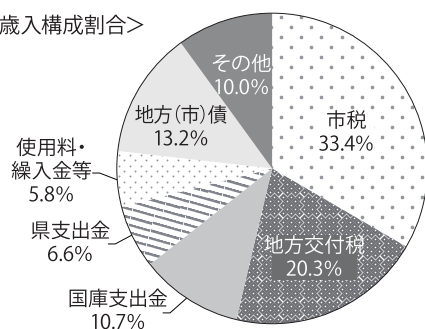
- 2016(平成28)年度の普通会計における歳入総額は約199億円、歳出総額は約194億円となっています。

■歳入・歳出決算の状況

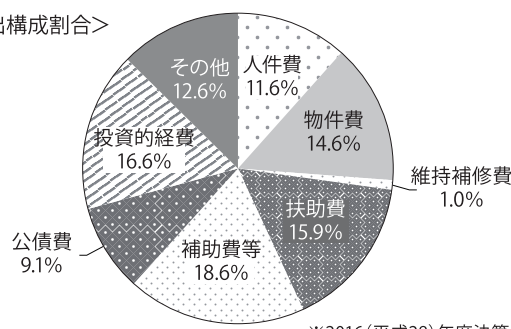
(単位:千円、%)

歳入合計	市税の割合	地方交付税の割合	地方(市)債の割合 ^{*146}	歳出合計	人件費の割合	公債費の割合	投資的経費の割合
19,892,512	33.4	20.3	13.2	19,448,299	11.6	9.1	16.6

<歳入構成割合>



<歳出構成割合>



※2016(平成28)年度決算:普通会計ベース
資料:加東市(加東市統計書)

②財政指標

- 経常収支比率^{*59}は、財政構造の弾力性を判断するための指標であり、比率が高いほど財政構造の硬直化が進んでいることを表します。近年全国的に比率が高くなっており、本市では、2016(平成28)年度85.5%となっています。
- 財政力指数^{*76}は、標準的な水準で行政を行う場合に要する経費(基準財政需要額)を標準的に収入しうる財源(基準財政収入額)でどの程度賄えるかを示したもので、指数が高いほど財源に余裕があるということになり、1を超える団体は、普通交付税の交付を受けません。本市では、2016(平成28)年度0.72となっています。

■財政指標等の状況

地方(市)債現在高 ^{*59}	人口1人当たり ^{*59}	積立金現在高	人口1人当たり ^{*59}	経常収支比率	財政力指数	実質公債費比率 ^{*92}
(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(%)		(%)
20,452,542	507	13,039,110	323	85.5	0.72	5.1

※2016(平成28)年度決算:普通会計ベース

※基準人口:総務省(2015(平成27)年)国勢調査

資料:加東市(加東市統計書)

4 まちづくり市民ワークショップの概要

「まちづくり市民ワークショップ」を次のとおり開催しました。

(1) 参加者

- ①一般公募により応募いただいた方
②無作為抽出による参加案内により申込みをいただいた方
③団体(まちづくり協議会・商工会)から推薦いただいた方
④兵庫教育大学から推薦いただいた方(学生)
⑤市職員
参加者数:43人(うち市職員16人)

◆「文化」「安心」分野

氏 名	氏 名
市 民 等	市 職 員
板倉 加菜	篠田 玲子
伊藤 明洋	芹生 祥子
尾上 豊	高井 玲子
時井 世津子	高濱 さおり
内藤 喜和	
藤本 貴樹	
松浦 博秀	
山口 公人	
山本 洋介	

◆「安全」「快適」分野

氏 名	氏 名
市 民 等	市 職 員
小原 蒼溪	岸本 茉里
上月 尚子	北島 恭子
樹梨 林三	進藤 恭輔
柴垣 良一	藤崎 純平
竹内 敏郎	吉田 文
豊田 洸輔	
藤井 哲夫	
増田 一貴	
松井 敏	

◆「活力」「協働」分野

氏 名	氏 名
市 民 等	市 職 員
芦沢 和弥	石田 幹治
石田 強	小笠原 和慶
井上 義幸	田村 梓
臼井 欣之	長濱 泰栄
大西 世津子	長谷川 武史
神戸 洋一	花野 圭佑
國井 隆行	山本 啓太
長野 沙紀	
村井 容子	

※分野単位で50音順、敬称略

(2) 開催概要

【全体ワークショップ】

回	年 月 日	ワークショップの内容
第1回	2016(平成28)年11月12日(土)	ワールドカフェによって市全体の魅力について情報交換する。

【分野別ワークショップ】

◆第1グループ:「文化」「安心」分野…地域文化、学校教育、生涯学習、子育て支援、福祉・医療など

回	年 月 日	ワークショップの内容
第1回	2016(平成28)年11月26日(土)	分野毎の市の良いところ、良くないところを未来の市につなぐ観点から探り出す。
第2回	2016(平成28)年12月22日(木)	分野毎の市の将来像(まちづくりの目標)を、良いところ、良くないところを踏まえて考える。

◆第2グループ:「安全」「快適」分野…環境、防災、防犯、まち並みづくり、情報発信、公共交通など

回	年 月 日	ワークショップの内容
第1回	2016(平成28)年12月1日(木)	分野毎の市の良いところ、良くないところを未来の市につなぐ観点から探り出す。
第2回	2017(平成29)年1月14日(土)	分野毎の市の将来像(まちづくりの目標)を、良いところ、良くないところを踏まえて考える。

◆第3グループ:「活力」「協働」分野…農業、産業、観光、人権、コミュニティづくりなど

回	年 月 日	ワークショップの内容
第1回	2016(平成28)年12月10日(土)	分野毎の市の良いところ、良くないところを未来の市につなぐ観点から探り出す。
第2回	2017(平成29)年1月26日(木)	分野毎の市の将来像(まちづくりの目標)を、良いところ、良くないところを踏まえて考える。

【全体ワークショップ】

回	年 月 日	ワークショップの内容
第2回	2017(平成29)年2月4日(土)	各グループで考えた分野毎の市の将来像(まちづくりの目標)を披露して意見交換を行い、それを踏まえて、市全体の将来像を考える。

5 市民意識調査(アンケート)の概要

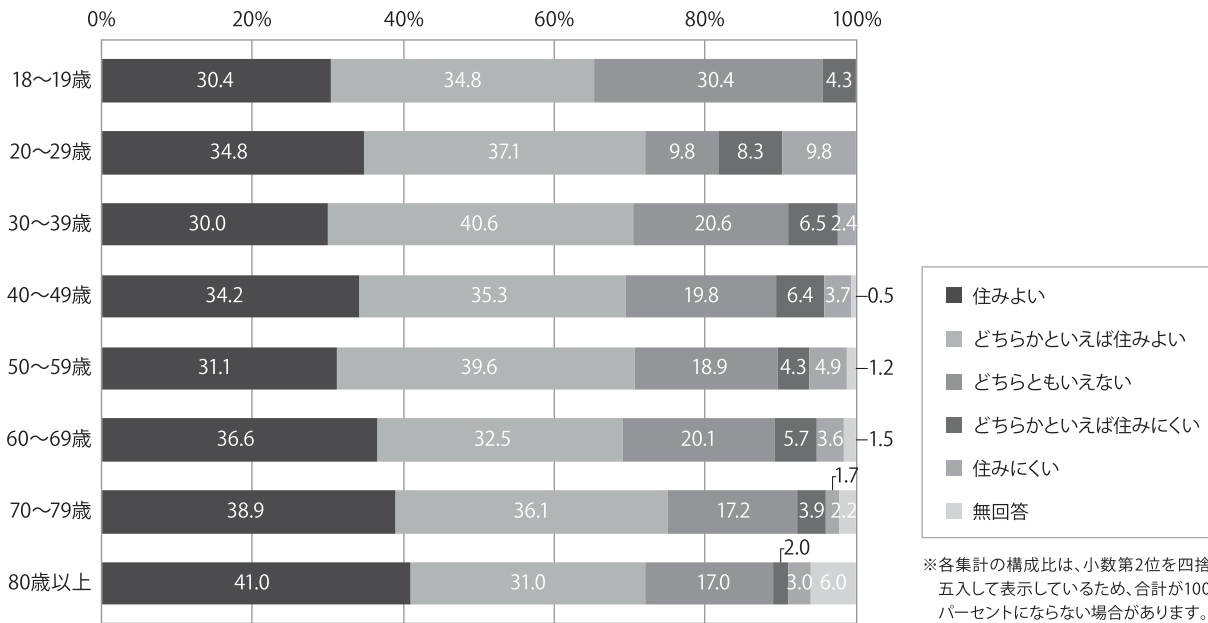
「市民意識調査(アンケート)」を次のとおり実施しました。

(1)実施概要

- ①対象地域：市全域
- ②調査対象：満18歳以上の市民
※2017(平成29)年5月末現在
- ③対象者数：4,000人
※無作為抽出(地域・世代を考慮)
- ④調査時期：2017(平成29)年7月～8月
- ⑤調査方法：郵送配布・回収
- ⑥回収結果：有効回答数(率) 1,178人(29.5%)

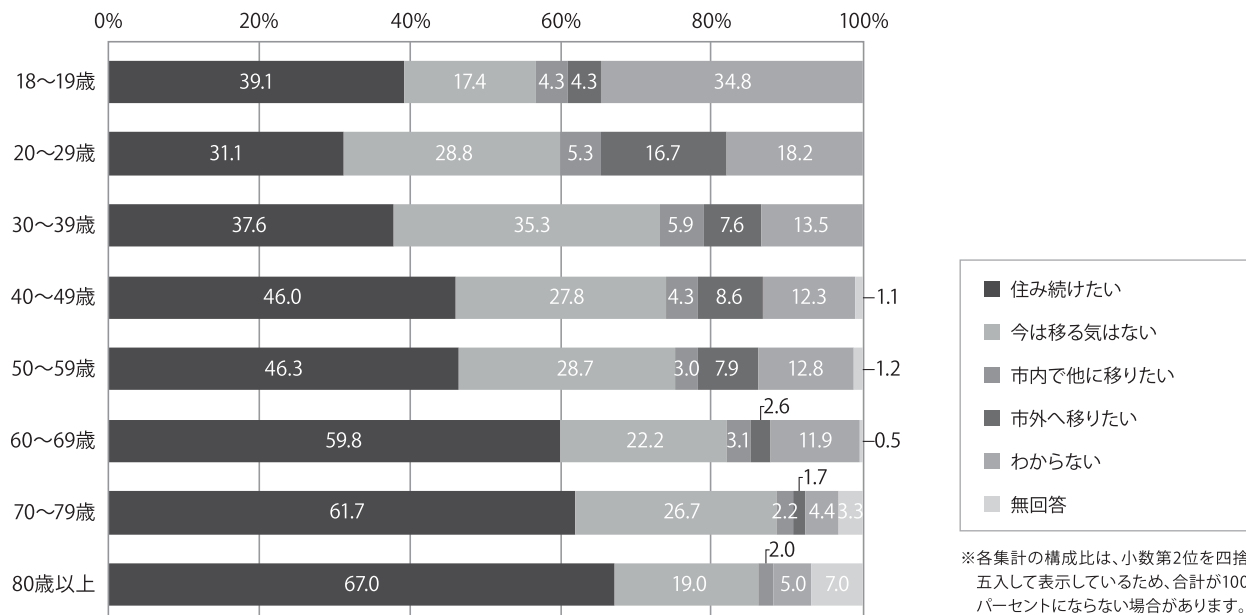
(2)本市の住みよさ

「あなたは、加東市を住みよいまちだと思いますか」という設問について、年代別にみると、年代による大きな差はみられません。



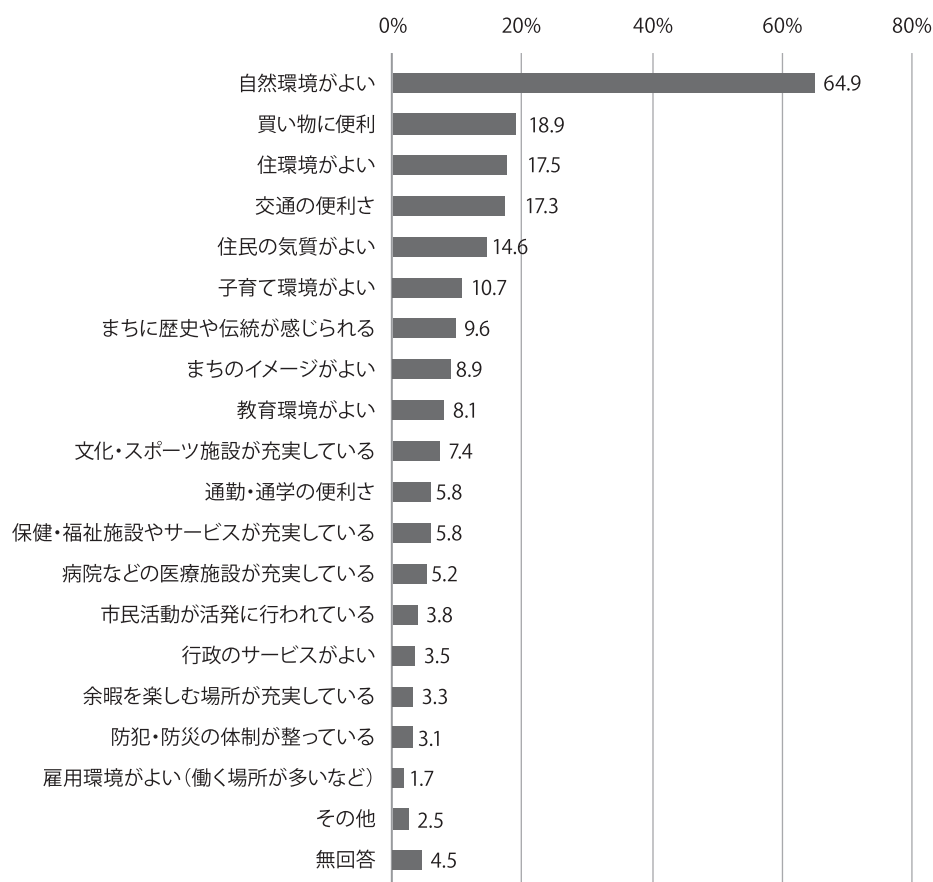
(3)本市への定住意向

「現在住んでいるところに、これからも住み続けたいと思われませんか」という設問について、年代別にみると、20歳代で「住み続けたい」(31.1%)の回答率が低くなっています。また、30歳代で「今は移る気はない」(35.3%)の回答率が高く、「住み続けたい」(37.6%)の回答率が低くなっています。そして、60歳代以上で「住み続けたい」(60歳代：59.8%、70歳代：61.7%、80歳代：67.0%)の回答率が高くなっています。



(4) 本市の好きなところ・誇れるところ

「加東市の好きなところ・誇れるところはどれですか（○は3つまで）」という設問について、「自然環境がよい」（64.9%）の回答が最も多く、次いで「買い物に便利」（18.9%）、「住環境がよい」（17.5%）、「交通の便利さ」（17.3%）が続いています。



※複数回答による割合を示します。

(5) 施策の重要性と満足度について

「現在、加東市が取り組んでいる施策又は取り組もうとしている施策について、その重要性と現状についての満足度をお聞きます（項目ごとに○は1つずつ）」という設問について、44の施策の重要性と満足度が次のとおりとなりました。

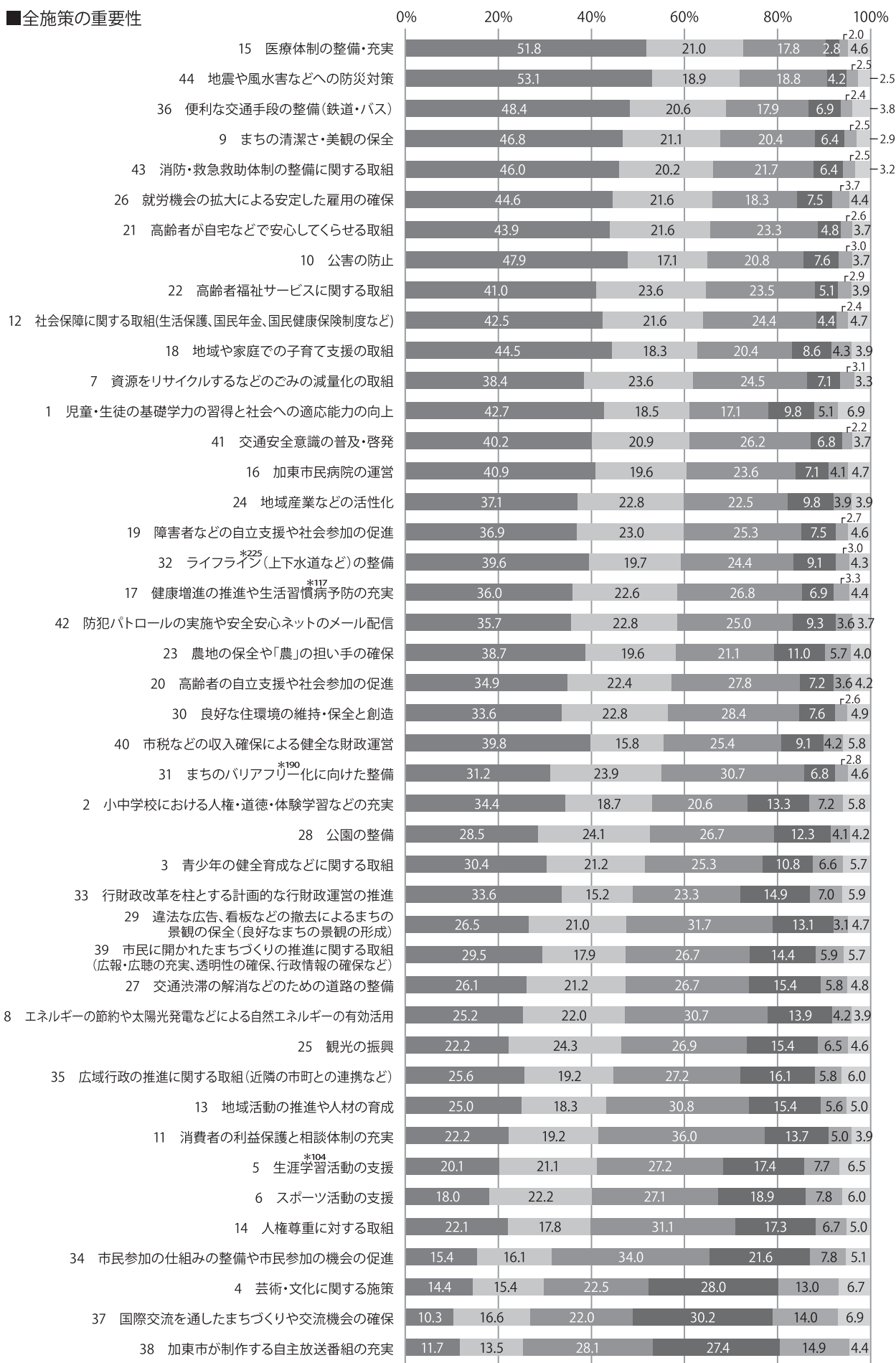
<重要性>

44の施策の、「重要である」と「やや重要である」をあわせた『重要である』の回答率は、「医療体制の整備・充実」が72.8%で最も多く、次いで「地震や風水害などへの防災対策」が72.0%、「便利な交通手段の整備（鉄道・バス）」が69.0%と続いています。

<満足度>

44の施策の、「満足」と「まあ満足」をあわせた『満足』の回答率は、「資源をリサイクルするなどのごみの減量化の取組」が32.8%で最も多く、次いで「まちの清潔さ・美観の保全」が32.6%、「消防・救急救助体制の整備に関する取組」が27.2%と続いています。

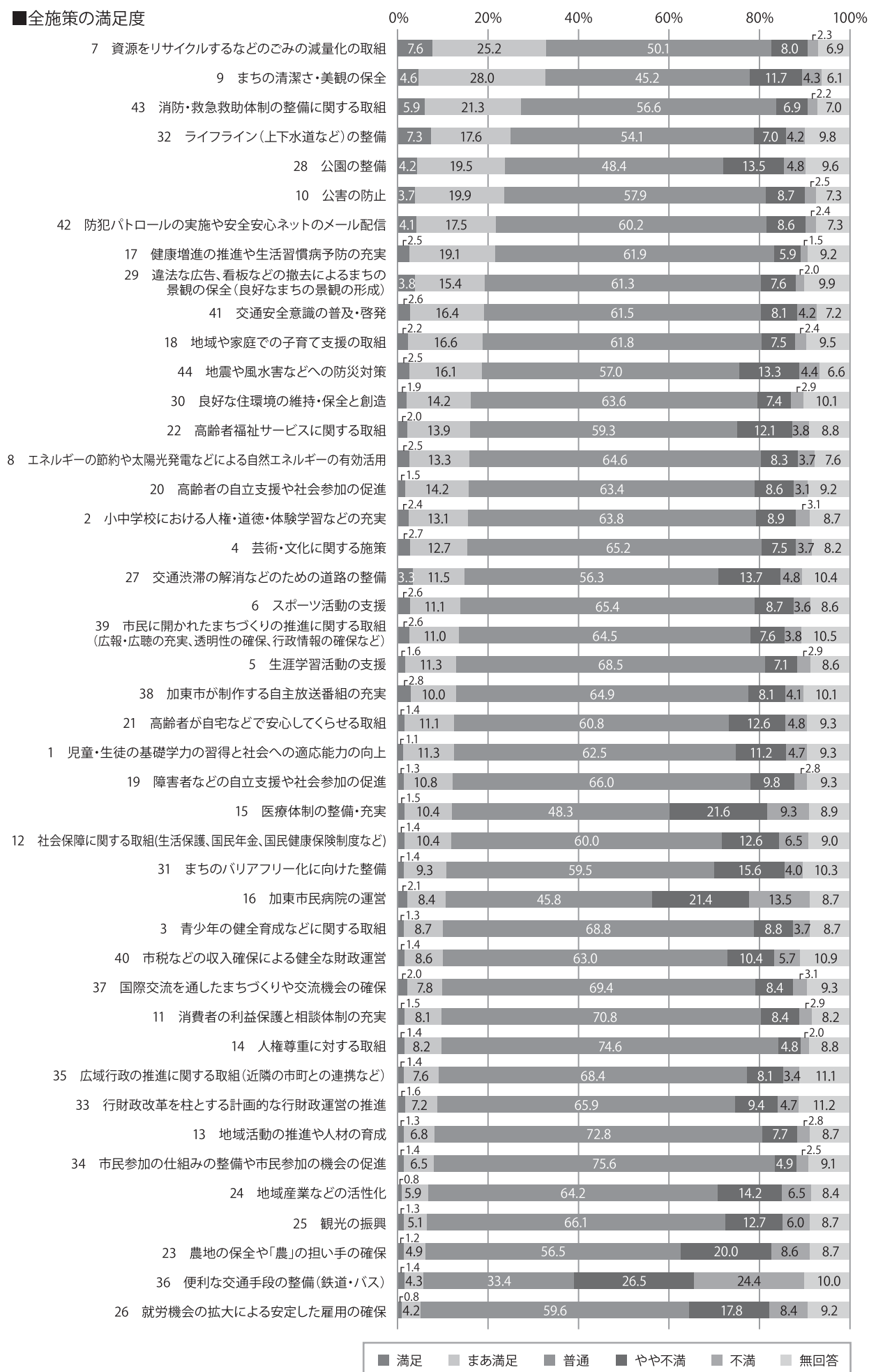
■全施策の重要性



■ 重要である ■ やや重要である ■ 気にはなる ■ あまり気にならない ■ 気にならない ■ 無回答

※各集計の構成比は、小数第2位を四捨五入して表示しているため、合計が100パーセントにならない場合があります。

■全施策の満足度



※各集計の構成比は、小数第2位を四捨五入して表示しているため、合計が100/パーセントにならない場合があります。

6 タウンミーティングの概要

「市長まちめぐりタウンミーティング」と「市長と語ろうタウンミーティング」を次のとおり開催しました。

(1) 市長まちめぐりタウンミーティングの概要

年 月 日	区 域 名
2017(平成29)年6月19日(月)	社小学校区(西・北)
6月21日(水)	社小学校区(東・南)
6月23日(金)	福田小学校区
6月27日(火)	米田小学校区
7月4日(火)	三草小学校区
7月5日(水)	鴨川小学校区
7月11日(火)	東条東小学校区
7月14日(金)	東条西小学校区
7月18日(火)	滝野東小学校区(西)
7月20日(木)	滝野南小学校区
7月24日(月)	滝野東小学校区(東)

(2) 市長と語ろうタウンミーティングの概要

年 月 日	参 加 者	テ ー マ
2017(平成29)年4月21日(金)	滝野工業団地連絡協議会	雇用対策の充実について
6月2日(金)	商工会	雇用・人材の確保について
7月3日(月)	社商店連合会	加東市人口40,310人(2015(平成27)年国勢調査結果)のうち 3,000人が住む社地区、その社地区の中心である社商店街を活気づけ、人が行きかう活気のある場所にする。
8月10日(木)	市内4中学校生徒会役員 (中学生による「かとう未来フォーラム」)	・自分たちが通う中学校の自慢をしよう! ・加東市って、どんなまちだと思っていますか? ・加東市が将来、どんなまちだったら住みたい、住み続けたいですか?

7 加東市統計書

市についての各般にわたる基本的な統計資料を本計画の別冊としてまとめています。

8 策定経過

年 月	市		市 民 等
	庁 内	議 会 (総合計画検討特別委員会)	
2016 (平成28) 年度			
8月	・策定委員会設置 ・総合計画策定に係る職員研修会 ・第1次総合計画総括 (～2017 (H29) 3月)		
11月			・まちづくり市民ワークショップ (全体・分野別各1回)
12月			・まちづくり市民ワークショップ (分野別3回)
1月			・まちづくり推進市民会議 (第1次総合計画後期基本計画総括) ・まちづくり市民ワークショップ (分野別2回)
2月	・庁内組織検討・調整 (～2018 (平成30) 年3月) ・基本構想概案作成 (～3月)		・まちづくり市民ワークショップ (全体1回)
3月	・策定方針策定 ・第1回策定委員会 ・基本構想概案調整 (～6月)	・総合計画検討特別委員会	・総合計画審議会への計画策定に係る諮問 ・第1回総合計画審議会
2017 (平成29) 年度			
4月	・策定委員会作業部会 ・前期基本計画原案作成 (～5月)	・総合計画検討特別委員会	・市長と語ろうタウンミーティング (滝野工業団地連絡協議会)
5月		・総合計画検討特別委員会	
6月	・第2回策定委員会 ・前期基本計画たたき台調整 (～8月) ・職員アンケート		・第2回総合計画審議会 ・市長まちめぐりタウンミーティング (4地域) ・市長と語ろうタウンミーティング (商工会)
7月			・市長まちめぐりタウンミーティング (7地域) ・市長と語ろうタウンミーティング (社商店連合会) ・市民意識調査 (アンケート) (～8月)
8月		・総合計画検討特別委員会	・市長と語ろうタウンミーティング (市内4中学校生徒会) ・掲載絵画募集 (～9月)
9月	・第3回策定委員会 ・前期基本計画素案調整 (～12月)		・第3回総合計画審議会
10月	・第4回策定委員会 ・基本構想素案調整 (～12月)	・総合計画検討特別委員会	・第4回総合計画審議会
11月		・総合計画検討特別委員会	・パブリックコメント ^{*189} (～12月) ・応募絵画選考
12月			・まちづくり市民ワークショップ (計画 (素案) 報告会) ・応募絵画表彰
1月	・第5回策定委員会 ・総合計画案調整 (～2月)	・総合計画検討特別委員会	・第5回総合計画審議会 ・総合計画審議会からの計画策定に係る答申
3月	・計画案 (基本構想・前期基本計画) の議会への提案、策定	・総合計画検討特別委員会 ・計画案 (基本構想・前期基本計画) の議決	
2018 (平成30) 年度			
4月	・第2次総合計画スタート		